

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	バイオセンシング						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択必修科目						
担当者	大貫 宏一郎						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の基質特異性は何に由来するか説明できる。</li> <li>・神経興奮など生体における情報伝達システムを描ける。</li> <li>・バイオセンサにおける信号変換方法を列挙できる。</li> <li>・バイオセンサの長所と短所を説明できる。</li> </ul>						
日程と内容	4/7：導入講義、授業の進め方と概要の説明、成績評価法など。 4/14：酵素の触媒能力 4/21：酵素タンパク質の立体構造 4/28：酵素の基質特異性 5/12：酵素の諸性質（最適pH、最適温度など） 5/19：酵素反応速度論 5/26：酵素に関する総括 6/2：生物の感覚、神経細胞 6/9：神経興奮、跳躍伝導 6/16：味覚の原理 6/23：嗅覚の原理 6/30：その他の化学感覚 7/7：視覚の原理 7/14：バイオセンサーに関する総括 7/21：定期試験 7/28：全体総括、復習						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	予定していた項目はすべて実施して、概ね達成できたと考えている。						
反省点	昨年度の平均点が非常に高かったため、内容を多少高度にしたところ、授業評価の総合点が8.6→8.3と0.3ポイント低下した。						
来年度の計画	項目自体は同様として、内容の充実を図りたいと考えている。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合が8.3と昨年度より0.3ポイント低下し、授業内容が高度になり過ぎた懸念がある。自由記述では、「分かりやすい」「楽しい」が多くみられ、内容を理解してもらい、興味を持ってもらえたことは、成功であったと感じた。高度な内容をなるべく維持しつつ、分かりやすく満足度の高まる内容にしたいと考えた。各項目について、4.3程度の項目が多く、来年度も同等以上クオリティーを保っていきたいと考えている。						
履修登録者数	79名	定期試験 受験者数	78名	合格者数	78名	合格率	100%